京都の福祉

シアワセ運ぶ情報誌

561
2017年4月

Contents

目を閉じた写真がズラリ！
笑顔あふれるストーリー
～人×施設がキラリ～
ひとつなぎ
夢中！ 熱中！ ふくしびと

もえぐさ

何気なく見ていたテレビ「カンブリア宮殿」、ファンドマネジャー藤野英人さんの特集。ダメな会社の見抜き方の話に思わず身を乗り出した。一つは、傘立てが片付いていないこと。理由は自分事として考えて片づける社員がいないから。わが職場の傘立てを思い浮かべて赤面。もう一つ興味深かったのは、社長が自伝を渡す会社。社長が今を生きていないからだそうだ。私に自伝は関係ないが、今を生きているかとの問いに今度は青くなった▼「地域共生社会」や「我が事・丸ごと」が大きなテーマとなっている。総合相談体制や小地域福祉活動、生活支援サービスの開発などの重要性はわかるが、私が社協に勤めはじめた二十数年前も同じようなことが課題だった。最近つくづく思うことは、地域福祉は基本的な活動を積み重ねることが大切で、施策に振り回されてはいけないということだ▼そんな私に、そして京都府社協に、今を生きているかという問いが迫る。過去の経験にとらわれ過ぎていないか。時代の変化をとらえているか。求められているか▼さあ、新年度。新しい風を感じよう。地域福祉の本質を大切にし、その役割と価値を発信するとともに、皆様から頼りにされるように力を合わせて新たなことに挑戦する1年にしたい。あ、傘立ての整理も忘れないようにしなければ。（T・T）

目を閉じた写真がズラリ！

ありのままの姿の写真を通して、人と人、人と社会がつながる写真展

鑑賞する人々

2015年2月、京都市山科区で写真展「ヤマシナポートレート」が開催されました。この写真展では山科区にゆかりのある約300人の「目を閉じた」写真が展示されました。企画したのは、京都市内の障害者施設で働く成実憲一さん。写真展を開催するまでのプロセスを通じて、地域に住む人々の多様性を知り、障害のある人と社会、地域に住む人同士のつながりが広がって欲しいという想いが込められていました。

誰もが関われ、つながれる場づくりをしたい

成実さんは、教育系大学で美術を学んだ後、写真、立体造形など現代美術の創作活動をしながら、障害者施設の職員として就職します。施設では、障害のある人の作品を展示するギャラリーを作ったり、展覧会を開催したりしました。また、障害のある人の作品をモチーフに商品化したこともあります。このような取り組みの中で、「どうして障害のある人の作品だけを発信しているのだろう?」「自分も作品を作っているのに、なぜ一緒に展示しようと思わないのだろう?」と疑問に感じたことがありました。この想いがきっかけとなって、芸術を通して誰もが取り組みに関わることができ、人々がつながれる場を作りたいと2013年に「ヴァリアス・コネクションズ」を立ち上げました。

ヴァリアス・コネクションズでは、京都大学総合博物館での「仮想博物館」の取り組みを皮切りに、様々な取り組みを展開しています。これまでの最も大きな取り組みとなったのが、先に紹介した写真展「ヤマシナポートレート」でした。

ありのままの姿で人との距離が縮まる

会場設営の様子

どのような企画にするのか。障害のある人もカメラ好きな人が多く、シャッターを押すだけの簡単な操作で参加できるという点で、当初からカメラを使った写真展という構想がありました。でも、思い思いに撮影した写真を集めて展示しただけでは、写真展としての統一感が出ません。ヴァリアス・コネクションズのメンバーで議論をするもすぐには結論が出ませんでした。「誰でもできる」「共通の動きをする」をコンセプトに議論を深めていきました。目を閉じることを思いついたのは、成実さんが息子さんの寝顔を見た時でした。目を閉じた姿は、その人のありのままの姿、素の姿です。こうした無防備な姿は、日常とは違った意外な一面であり、その姿を写すことで写真を見る人との距離が縮まるのではないかと思ったそうです。また、目を閉じた姿は、祈りを連想させるものでもあります。全てをモノクロ写真にしたのも、被写体が主張しすぎず、シンプルな表現となり、その方のこれまでの人生、様々な想い、未来への希望など写真から伝わってくる「余白」を味わえるようにとの配慮です。

展示された写真

「人がつながる場」を現実化した写真展

写真展当日までの準備段階でもたくさんの新しいつながりが生まれました。撮影は成実さんが街で直接声をかけたり、福祉施設に出向いたりしました。参加者同士で撮って交換し合う撮影会で撮影した写真や京都市山科身体障害者福祉会館に掲示されたパネルを見て応募された写真もあります。京都造形芸術大学の学生にはカメラマンとして撮影に出かけてもらう機会も作り、写真展の設営などの裏方の仕事にも協力してもらいました。まさにヴァリアス・コネクションズが大切にしている「人々がつながれる場を作りたい」という想いが形になった写真展となりました。

設営に協力する京都造形芸術大学の学生

写真展の取り組みは、翌年、静岡県にも広がりました。静岡県では、静岡大学のアートマネジメント力育成事業が母体となり、市民参加のワークショップで写真展がつくり上げられました。ここでも「人々がつながる場づくり」を実践しています。

これからも続く「人々がつながる場づくり」

成実さんはこれから取り組みたいこととして、目を閉じた写真展を続けていくことと「だれでもカメラ部」をあげてくださいました。「だれでもカメラ部」とは「ファインダーを通して社会とつながる」をコンセプトに、高齢者や障害のある人、ひきこもりの人をはじめ、写真や人・社会とのつながりに興味のある人が誰でも参加できる取り組みです。カメラで撮影している姿を見て「何をやっているの?」と自然に地域の人々との会話が生まれる。「人々がつながる場づくり」はこれからも続きます。

社会福祉協議会が進める地域福祉活動は、人と人とのつながりの中から生まれ、住み慣れた地域で安心して暮らす基盤を育てていくものです。今回紹介した取り組みは、ツールは違っても根底に流れる想いには共通したものがあります。地域には、様々なツールを使って人と人とのつながりづくりをされている取り組みがたくさんあります。社会福祉協議会としては、こうした多くの方々の取り組みと共鳴しながら、よりよい地域づくり、社会づくりを目指していきたいと思います。

（写真提供）
ヴァリアス・コネクションズ
http://www.various-c.com/

笑顔あふれるストーリー 人×施設がキラリ

「笑顔カレンダー」をご存知ですか？

これは、京都府社会福祉施設協議会の事業として、福祉の現場であふれている笑顔をカレンダーにしたものです。京都府内の福祉施設・事業所から応募いただいたたくさんの「笑顔」。

その中から2枚の写真を取り上げて、その笑顔に込められたストーリー（福祉サービスを利用している方の暮らしやそれを支える職員の思い）を聞き、あたりまえの暮らし・笑顔が生まれる暮らしを送るために大切にしたいことと福祉職場の魅力をお届けします。

私たち、母娘みたいでしょ!!

職員の笑顔が現場の笑顔をつむぐ

社会福祉法人成光苑　ライフ・ステージ舞夢（グループホーム）

行事用のお弁当を一緒に作っている合間のひと時を撮影したものです。グループホームに入所して約７年。在宅のときは一人暮らしで家に閉じこもりがちだったそうですが、ホームでは炊事、洗濯干し、掃除と毎日よく動かれて、とても明るく社交的で生き生きと毎日を過ごされています。

編み物、手芸等が得意で趣味が多彩な人とのこと。ホームの食事が大好きで、毎日「美味しい!!」と笑顔で食べられています。職員のお話によると、いつもニコニコ素敵な笑顔で、怒った顔は見たことがないそうです。職員と話しているときは冗談も言いながら、笑顔が絶えることはありません。

この写真を撮影したのは入職４年目の職員。母親に恩返しをしたくて福祉職場で働くことにしたとのこと。ホームが開設され９年目となり介護度が重くなっている利用者もいる中で、楽しみのある生活を送ってもらうためにどうしたら良いかが一番の関心事だそうです。

撮影者の佐藤さん

こんな毎日を支えるために大切にしていることは、職員がいつも笑顔でいること。職員同士の良好なコミュニケーションが笑顔の現場につながっているといいます。

笑顔に寄り添うコミュニケーション

社会福祉法人不動園　あけぼの荘（小規模多機能型居宅介護）

敬老会行事で保育園児が施設を訪れたときにジャンケン遊びをしている様子を撮影したものです。こども心に返ってのジャンケンがとても楽しかったようです。

３人とも主に通いで利用しており、一人暮らしの人が１人、ご家族と同居が２人で、それぞれ通い始めてから１年８か月～３年半になります。利用前は自宅でテレビを１人で観て過ごすことが多かったそうですが、通い始めてからは友人もでき、会話やレクリエーション・食事を楽しみに、特に食事はみなさんと一緒に美味しく食べるなど大変楽しみながら生活されています。

熱いお味噌汁と湯船につかり歌を歌うことが好きな人、レクリエーションのゲームで勝敗を重視する人、みなさんとおしゃべりするのが大好きで計算問題が得意な人と、個性豊かな３人の笑顔は普段から見られますが、今回の保育園児との交流は一段と素晴らしい笑顔が飛び出しました。

撮影は入職10年目の職員。自身の家庭との両立を図りながら日々を過ごしています。

「あけぼの荘に来て良かった」「今日もいっぱい笑ってきた」と自宅に帰れるよう、みなさんに楽しんでもらえる声掛けを意識しているそうです。

笑顔を生み出すために大切にしていることは、笑顔の出る話題でコミュニケーションを取るように心掛けること。その人の好きなことを思い浮かべながら、寄り添い暮らしを支えることを大切にしています。

どっちが勝つかな

友人や職員との会話、おいしい食事、行事のひと時など、日常のさまざまな場面で笑顔が生まれています。１人で過ごしたり、閉じこもりがちだった人も、施設を利用する中でいろんな楽しみができ、気持ちの変化にもつながっているようです。

利用している人の笑顔や生き生きと過ごす姿は、職員にとっても、仕事の励みややりがい、癒しとなっています。そのことが、さらなる笑顔を生み出す日々の支援にもつながっているのではないでしょうか。

日々たくさんの笑顔が生まれている福祉の現場。その笑顔や暮らしを支える職員のみなさんをこれからも応援していきます。

用語解説

グループホーム（認知症対応型共同生活介護）▶認知症の高齢者が共同で生活する住居において、入浴、排せつ、食事等の介護や日常生活上の世話、機能訓練を行います。 少人数の家庭的な雰囲気の中で、できる限り自立した生活を送ることを目指します。

小規模多機能型居宅介護▶通いによるサービスを中心に、利用者の希望などに応じて、訪問や宿泊を組み合わせて、入浴、排せつ、食事等の介護や日常生活上の世話、機能訓練を行います。

ひとつなぎ 8

日常の暮らしの中にあるつながりを見つけ結びなおす「絆ネット」の取り組みをエピソードを通してつづります。

地域にはどの人も活躍の場がある

「ご近所づきあいが面倒くさい」「自治会や地域の活動って役員がまわってきて大変」という声をよく耳にします。人と繋がることのしんどさばかりがピックアップされているなと感じていました。顔の見える関係性を構築していくには、どうしたらいいのかな?と考えていると、お寺の住職さんが「お寺は昔、地域の人が気軽に集える場所だった」とおっしゃいました。その言葉から、まずは顔の見える関係性を構築するには人が気軽に集まれる場所が重要だと気づきました。お寺が地域の拠点になる様な活動を実施するために、住職さんと企画を考え、繋がりづくりの第一歩としてお寺でもちつき大会を実施することになりました。チラシを民生委員さんと配布したり、登下校中の小学生に挨拶運動を兼ねて広報を進めていく中で、意外にもたくさんの人達が「地域に貢献したい」という想いを持っておられ、近隣の人達や企業が協力して下さる場面に遭遇しました。きっかけがないだけで、声に出せばみなさん協力して下さると感じました。

当日は、3歳～93歳までの50名程の参加がありました。高齢者は子ども達の餅つきをほほえましく見守り、餅丸めは子ども達が高齢者に指導をうけながら一緒に行う。各々ができる事を協力して実施する光景を目にして、人と繋がることも、できる範囲でお互い支え合うことも、長く無理なくできる活動であり、住民が求めている形かなと感じました。

誰もが自由に参加でき、老若男女問わずコミュニケーションが図れ、一人でも多くの人に感じたことを伝え合うこと。強い繋がりと顔見知り程度の緩やかな繋がりのバランスを保ちながら顔のみえる関係性を大事にした長岡京市になればと思います。

（長岡京市社会福祉協議会　吉岡　祐一）

TOPICS

京都府災害派遣福祉チーム員養成研修を開催

京都府災害時要配慮者避難支援センター主催でこのほど「京都府災害派遣福祉チーム（DWAT）員養成研修」が京都府内２か所で開催されました。（２月４日：福知山市、２月18日：京都市）

本研修では、平時の取り組みとして、京都市東山・山科・醍醐エリアのチーム員が地域の防災訓練に参画した報告や、各地域で要配慮者避難に理解のある一般市民や専門職等を養成する役割がチーム員に期待されていることについての講義がありました。

後半の演習では、地域ごとのチームに分かれ、個人でできる活動、チームでできる活動についてアイデアを出し合い、平時のチームの活動として実現できそうなことを検討しました。どのチームも熱心に意見交換が行われ、日頃からチーム員同士のつながりをつくることや、地域においてDWATの活動を広報する取り組みなどが挙げられました。

講師である華頂短期大学の武田康晴教授からは「京都府内での災害を想定すると、本日の演習メンバーはDWATチームとして他地域へ派遣されたり、自分の地域の受援の窓口となったりする可能性がある。いざという時に備えて本日検討した平時の活動についてぜひ具体的な一歩を進めてほしい」というお話がありました。

主催者では本研修をきっかけに各地域において取り組みが進み、DWATについての理解や地域の受援力が高まっていくことを期待しています。

夢中! 熱中!

ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

廣地　麻衣さん　ひろち　まい
施設名　社会福祉法人　宏量福祉会　野菊荘
〒615-0092
京都府京都市右京区山ノ内宮脇町９
HP／URL：http://www.nogiku.gr.jp/
TEL.075-801-9734　FAX.075-801-9735
職種：母子支援員　経験年数：８年
★好きな言葉：笑顔
★夢中になっている事：読書

お母さんや子どもたちと共に歩みたい

★仕事を始めたきっかけは?

学生時代の実習先が今の職場でした。様々な事情を抱えた母子が入所する施設で、自立を支援していく仕事の重要性を感じ、また笑顔で働く職員の雰囲気が好きで野菊荘で働きたいと思いました。

★仕事の内容とやりがいは?

母子生活支援施設は、児童福祉法第38条に基づき、お母さんと子どもが入所できる児童福祉施設です。DVや児童虐待、精神疾患や養育不安などを抱える家庭が、安心・安定した生活を送ることが出来るよう支援しています。近年、母子生活支援施設は、地域のひとり親家庭支援の拠点となることが求められており、野菊荘でも地域に向けた支援に取り組んでいます。

子どもたちはかわいくて、毎日パワーをもらっています。それぞれの世帯、お母さん、子どもの抱えるニーズは異なるので、個々に応じた支援内容は多岐にわたります。

私は、お母さんと子どもが地域生活に向けて一歩を踏み出すお手伝いが出来る、この仕事にやりがいを感じています。その人が本来持っている力を認め、希望を持って主体的に生活していけるよう支援することを心がけています。私自身が橋渡しとなり、お母さんや子どもたちが地域社会と繋がっていけると良いと思っています。

★プライベートの過ごし方は?

比較的長期のお休みがとりやすいので、旅行に行っています。

★今後の目標(抱負)は?

様々な経験を積み、様々なアプローチで地域のひとり親家庭や子育て世代に支援していきたいです。家族を大事にしながら、仕事も頑張れる女性になりたいです。

京都の福祉
561
2017年4月
発行所／社会福祉法人 京都府社会福祉協議会 発行人／宮本 隆司
〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375 TEL075-252-6291 FAX075-252-6310 印刷／株式会社きかんしコム

京都府社会福祉協議会からのお知らせ

TEL.075-252-6292
FAX.075-252-6310
http://kyoto-hyoka.jp/

寄付

ご寄付ありがとうございました

平成29年２月24日（金）に一般財団法人近畿陸運協会様より500,000円の御寄付をいただきました。児童福祉の発展のために活用させていただきます。

ありがとうございました。

写真左は、一般財団法人近畿陸運協会
理事長　德野 辰夫様

案内

第三者評価事業 受診事業所募集のおしらせ

京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構では、平成29年度の第三者評価受診事業所を募集しています。

受診を希望される事業所は、支援機構ホームページより「受診応募票」をダウンロードし、必要事項を御記入の上、支援機構事務局まで郵送でお申込みください。

【問い合わせ先】
京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構（事務局：京都府社会福祉協議会）

「みんなでつくり、みんなで備える 災害にも強いまちづくり～災害ボランティアセンター設置・運用ポイント集～」を発行しました！

災害ボランティアセンターの設置・運営にあたり、大切にしたい平常時から復興期までの支援ポイントや災害現場で直面した悩みや葛藤、その時に得た経験などの事例も示し、「被災者中心の支援」という視点を持ちながら、「見立てと見通し」を意識してもらえるよう作成しました。

ホームページからもダウンロードできますので、ぜひご覧ください。

京都府災害ボランティアセンター
http://fu-saigai-v.jp/

「きょうとハート基金」をご存知ですか？～災害時に福祉施設を支え合うために～

「きょうとハート基金」は、福祉施設や企業の経費（光熱水費など）をクレジットカードで支払うことで、利用額に応じたポイントを基金として積み立て、福祉施設に助成するという仕組みです。

助成は、災害時の施設復旧や防災・減災の取り組みなどが対象となります。災害時に公的財源では賄えない復旧経費を、施設間で相互に支え合うために、また想定外の事象への備えとしても、多くの福祉施設や企業に導入を呼びかけています。

ぜひこの機会にクレジットカードでの支払いへの変更をご検討ください。

詳しくは本会までお問い合わせください。

総務部福祉経営推進室
TEL.075-252-6292

何でも経営相談 気になること、困ったこと、お気軽にお電話ください

京都府経営協では、福祉施設の運営や経営面をサポートするため、経営指導事業を実施しております。

- 職員の休暇や休職・復帰の扱いで悩んでいる
- 法改正を伴う事項、就業規則をどう見なおせば？
- 利用者（家族）とのトラブル
- 賃金体系を見直したい　など

何でもお気軽に下記までご相談ください。

- 曜日　毎週月・水・金（祝日及び年末・年始除く）
- 時間　10:00～16:00

京都府社会福祉法人経営者協議会
TEL・FAX.075-252-6301

●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
http://www.kyoshakyo.or.jp　京都府社協　検索

本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。